

## 令和2年度第2回宇都宮市視聴覚ライブラリー運営委員会会議録

- 1 日 時 令和3年2月16日(火) 午後2時～午後3時
- 2 場 所 宇都宮市立東図書館集会室
- 3 出席者  
〔委員〕 若色美江子委員，羽山潔委員，手塚弘幸委員，飯田真也委員  
坂井幸一副委員長，川島芳昭委員長  
(欠席4名：新井由紀子委員，長谷川昌弘委員，松田貴比古委員  
石塚勝委員)  
〔事務局〕 視聴覚ライブラリー阿久津所長ほか3名
- 4 公開・非公開の別 公開
- 5 傍聴者 なし
- 6 議 事

(1) 報告事項

- ア 令和2年度視聴覚ライブラリー利用状況について  
イ 令和2年度視聴覚ライブラリー事業実績について

(2) 協議事項

- ア 令和3年度視聴覚ライブラリー運営目標(案)について  
イ 令和3年度視聴覚ライブラリー事業計画(案)について

(3) その他

7 発言の要旨

委員長：(1)報告事項 ア「令和2年度視聴覚ライブラリー利用状況について」及びイ「令和2年度視聴覚ライブラリー事業実績について」について

事務局：資料1・2に基づき一括して説明。

委員長：事務局からの説明について，ご質問・ご意見を伺う。

副委員長：視聴覚ライブラリーの活動もコロナ禍で大変だったと思う。P2の視聴覚機材貸出点数について，学校教育で貸出が増えているほか，P4の視聴覚ライブラリー利用状況については，児童福祉増えている。児童福祉はどういうところか。

事務局：小学校の子どもの家と保育園が主たるものである。

委員長：P4の小学校への教材貸出が合計54件と非常に高い数値。昨年度より多くなっているが，どういう取り組みをされたのか。

事務局：小学校への貸出件数の増加については，過去に作成した自作教材が主なもの。教育情報システムを活用して各小・中学校に周知したほか，ライブラリーのホームページに教材の概要を載せ，学校の現場の先生が使いやすい，見やすいような形に改善した。

- 委員長 : 幼稚園・中学校・高等学校での利用はどうか。
- 若色委員 : コロナ禍の中で、視聴覚ライブラリー教材を借りることは少なくなった。幼稚園の場合、集まってしまうと密になってしまう。そういった理由で、貸出が減ってしまったと思う。
- 手塚委員 : 中学校の場合、DVD化したものが増えれば良いと思う。小学校・中学校でも、視聴覚教材はNHK for Schoolなどの教材を使っているのが現状。借りに来るとなると手間も時間もかかる。今後は、動画配信することも検討してほしい。
- 羽山委員 : 臨時休校の続いた折には、授業にあった教材を自宅でも見られるような配信を希望する先生方は多かったと思う。県の教育委員会では、動画が配信されているホームページやYouTubeなどをリストに整理して紹介していた。
- 委員長 : オンライン配信は理想ではあるが、前回は権利の関係で難しいとの話がでていた。その後事務局の方で何か話題になったことがあれば教えてほしい。
- 事務局 : 肖像権など、クリアしなければならない問題があるため、難しい部分があると考えている。ギガスクールが始まるとなると、学校教育では教育センターが中心となっていくであろうが、配信についてライブラリーとして協力できる部分があれば、協力していきたい。
- 飯田委員 : 今回のコロナ禍で、集まって事業を行うことは難しくなった。それでも児童福祉の方では、交通安全や防犯については、各協会に来ていただいてやってきたが、大人数で集まって行うことは難しい。  
ライブラリーにある素材は、小学校・中学校の教材が中心だと思うが、これからの時代、オンラインを検討していくことが相応しいと思うが、児童福祉の分野では、教材を購入して、それを借りるであろうというところがある。どのような教材があるのか、作品リストなどを通じて、関係者に周知をお願いしたい。  
また、機材関係についても充実を図って欲しい。
- 委員長 : オンライン配信については、宇都宮市の小・中学校に限定した配信サービスを考えることもできるのでは。教育センターであればできると思うが。この辺の権利関係はどうか。
- 事務局 : ライブラリーで作成した自作教材は各学校へDVDで配布した経緯があり、権利の部分について問題はないと思う。  
限定公開でオンライン配信することについては、教育センターなどの関係部署と協議する必要があるが、技術的な側面もあることから、今後検討したい。
- 委員長 : 高等学校向けの教材を含めて作ればよいのだが、検討してほしい。
- 委員長 (2) 協議事項 ア「令和3年度視聴覚ライブラリー運営目標(案)について」及びイ「令和3年度視聴覚ライブラリー事業計画(案)について」につ

いて。

事務局 : 資料3・4に基づき一括して説明

委員長 : 事務局からの説明について、ご質問・ご意見を伺う。

委員長 : 講座・研修等の「パソコン活用研修」で、ZOOM等のオンラインの研修で約140名の参加者があったが、令和3年度も引き続き同じ研修を行うのか。

事務局 : 研修の内容は未定。参加者からのアンケートを踏まえ、お客様ニーズに合った研修ができればと考えている。

委員長 : 「映像編集機器操作研修」は、今年度の実績よりも少なくなっている。また、昨年度の「ビデオ編集機操作研修」が次年度から「映像編集機器操作研修」となっているが、同じものなのか。

事務局 : 内容は同じ。ビデオ編集という言葉そのものが、昔のビデオテープそのものを編集しているイメージにつながるので、実態に合った「映像編集」とした。  
また、今年度の計画人数は40名であり、実績として111名来たが、編集補助をするというのが基本であり、操作に慣れた利用者も出てくるため、40名とした。

手塚委員 : 宮っ子チャレンジウィークでお世話になっているが、視聴覚ライブラリーではどのような活動をしているのか、また、スタジオの換気システムについて教えて欲しい。

事務局 : 宮っ子チャレンジウィークは、東図書館の受け入れと同時に行っており、16ミリ映写機の操作の仕方や、画像の編集を半日をかけて行っている。  
スタジオについては、空調を稼働すると外気を取り入れる形で換気をする仕組みになっている。換気能力についての数値的なデータはないが、今後の利用再開に向け、例えば2時間利用いただいて、その後1時間程度かけて扉を開けて送風機等を利用して換気するなどを考えている。

副委員長 : 運営目標「より良い学習を行うための視聴覚サービスを向上させる」の中で、オンライン配信のあり方について研究課題として入れていただいた方がよいように思う。昨年度から話題になっており、環境も変わってきているので、すぐにはできないと思うが、そういったものも入れてサービスを向上させてもらうのがよいと思う。

委員長 : 非常にいいアイデアだと思うが、事務局のほうで、今後研究として取り組んでいただくことは可能か。

事務局 : 今後の教育センターとの連携や、技術的な側面での研究があると思うが、オンライン配信の技術的な部分に理解不足なところもある。小学校・中学校

向けのオンライン配信は教育センターが主導的な役割を担うものと考えている。

委員長 : 目標には明示せずとも、できるところからやっていただければと思う。まずは、小・中学校向けに教育センターと協力してやっていただき、その後、幼稚園や高等学校への拡充なども考えていければと思う。

副委員長 : 宇都宮市の教育センターは、配信について検討はされているのか。

委員長 : 検討はされていないと思う。予算のかかる話なので、予算の出所がどこになるのか、また今回のギガスクールでその辺を含めて整備されていくのか、そのあたりは私の方でもわからないので、ご相談いただければと思う。

羽山委員 : 11ページの(5)の保存・整理という事業がある。教材の集め方の基本が、DVD・ビデオ・16ミリフィルム中心になっている。基本的に、媒体で保存されていなくても、デジタルデータとして、パソコン上でも、サーバー上でも残っていれば済むわけで、従来の方法であれば、媒体としてDVDなどで貸出すということになる。今後は収集や保存を、基本的には媒体ではなく、どこかに貯めておくイメージにしておけば、将来的に配信という方法がやりやすい形に変わってくるのではないかと思う。

委員長 : 市販教材は難しいと思うが、自作教材や、地域限定のものであればそういった方法もあると思う。先程の教育センターとの絡みもあると思うが、保存するのがライブラリーになるのか、どこになるのか難しいところ。ライブラリーの中では媒体以外で保存するシステムはあるのか。

事務局 : 基本はDVDなどの媒体で保存している。

委員長 : 羽山委員のご意見にもあったようなシステムの導入を検討する余地はあるか。

事務局 : 小・中学校向けのデジタルコンテンツは、教育センターのホームページで公開している部分もあり、それをライブラリーが行うとすると役割が重複する部分も出て来る。教育センターが果たす役割と、ライブラリーが果たす役割を整理する必要が出てくる。

委員長 : コンテンツについてはライブラリーにも役割があると思う。ライブラリーがメインで保管しておいて、教育センターがアクセスする仕組みもとれなくはないと思うが、その体制を作るのは時間がかかる話。すぐにどうこうではないが、羽山委員の意見も、今後の検討材料の1つとしていただければありがたい。この辺は、時代とともにどんどん変わってきているので、それを踏まえて少しずつ変更していかなければいけないかもしれない。大変な作業かと思うがよろしく願いたい。

飯田委員 : 今回コロナという状況があって、子どもたちだけではなく、職員を含めて研修や勉強会で集まらない状況があり、オンラインを活用することで、集ま

ることの良さやオンラインで場所や時間に関わらず見られることなど、新たなメリットが感じられた。今後はギガスクールや生涯学習でもオンラインを活用する形が増えてくると思う。例えば、スタジオや集会室を使って、カメラで操作をしながら教材制作ができるような、そういった研修とかシステムを考えて増やしていけば、施設の利用が増えることも考えられる。我々も自分で所有している機材でしかできないので、初歩的な感じでやっではいるが、もう一段階クオリティの高い研修が受けられるようになったり、機材的なものもライブラリーで借りられたり、もしくは集会室ごとセットで借りられたりといったメニューがあるといいなという感じはしている。

委員長 : 機材貸出はライブラリーの主要事業なので、飯田委員のおっしゃるように、性能が低いパソコンのカメラではなく、よりきれいな映像として撮影できるような仕組み、またはそういう機器などが少しずつ導入できれば、自作教材の作成にもつながっていくのではないかと思う。また、そういったものを作った先生たちにご協力いただいて、こちらでストックしたものを他の学校にも配信していく仕組みができあがると、利用が増えていくと思う。段階的な機器更新を含めて、今後検討していただきたい。

: 運営目標・事業計画（案）は、要望等もあったが、令和3年度の運営目標・事業計画は、原案通り了承。

(3) その他 について  
特になし。

事務局 : 以上で「令和2年度第2回宇都宮市視聴覚ライブラリー運営委員会」を閉会いたします。熱心なご議論をいただきありがとうございました。